

赤井の訓導夫妻が 愛兒と共に劍ヶ濱で モルヒネ自殺を企つ

石城郡赤井村第一小學校訓導矢代道雄(二六)は妻チヨ長(三三)男春夫(三三)と親子三人相伴ひ十三日午後五時頃泉村大字下川劍ヶ濱に於てモルヒネを嚥下し自殺を企てたるも死に切れず苦悶中を通行人が發見植田署に訴へ出應急手當の結果道雄とキヨは生命を取り止めたが春夫は遂に死亡した

人間苦の呻き 無情な養父母

自殺の原因に就き調査する處によればそこには呪はしい人生苦の呻きがある、道雄は植田町某の四男に生れ警中卒業後大正八年師範の第二部を出で直ちに隣村錦村大倉矢代廣信の養女前記チヨの婿養子となつた、それは大正十年四月であつた、養父廣信は本郡上遠野村小學校訓導であつたが

邪嫌に も春夫と云ふ

ふ子迄ある道雄夫婦に同棲も許さず道雄は獨り赤井驛前某飲食店の二階を借りて自炊を續けて今日に及んだのである、斯うしてなほ道雄は養父廣信から過分の送金を強請されて月俸六十圓の内から其大半を割き

養父母 に仕いだの

であるが冷血非道な養父母

職人の賃銀 平町役場調査

萬三千五百圓、此價格二萬千六百七十五圓に達すると平町役場にて調査した労働賃銀に依ると左官や石工、瓦葺、墨判等の各職人が二圓八十錢大工、仕學師、練瓦積、鋸力、木羽屋根、建具、指物、桶の各職人二圓

江名濱で鯉が大漁 其價格二萬余に及び

石城郡江名濱に於ける昨夕の鯉漁陸揚げは一萬數千尾に及び其價格二萬圓余に達したが漁區は久之濱諸戸間の沖合である

兵卒不起訴 證據不充分

石城郡錦村大字江栗仙台歩兵廿九聯隊第中隊二等卒小鍛冶三治(三三)が昨年五月五日茨城縣多賀郡松岡村大字淺川菓子職村山西松の母すえ(五七)を殺害した嫌疑者として去る五月仙台憲兵隊に捕はれ遂に犯行自白したの



家庭關

里芋の皮むき

これからそろそろ里芋の出る時分となりますが小人数の家庭なら兎に角多人數な

命が風船玉 電氣で黒焦げ

石城郡内郷村大字高坂字高橋納豆行商三浦伸藏(三三)は十三日正午頃同村の代神祭

らば一々むくのはめんどうですから、古風呂敷等で糊こし袋體のものを作つてその中に芋を入れ、ながしてこすりますと、大方一度に落ちます、かうする前に芋を水につけておきますと落ちるのも早うございます

野菜屑の利用法
使い残りの種々な野菜は、

石田部長の 活動寫眞は 愈々今晚から 聚樂館に上場

既報中警察署贊助、本社後援に依つて聚樂館に開演する警察龜鑑石田巡查部長の活動寫眞は愈々今晚からであるが石田部長の勇敢なる行動は各方面の讚嘆する處となり近來稀れなる大事件であると同時に脚色及び監督が日活會社の秦哀美であるから畫面は千變萬化就中

小野田の漏電 郡警崎村小野田炭礦志賀金

平方にて昨日電氣の引込線より漏電し天井裏二尺四方に亘つて燃焼抜き大事に至らんとしたのを幸じて消し止めた

至極圓滿で 小作爭議は 全然起らない

石城郡に於ける自作農は五千三百七十七人、小作農二千九百八十六人、兼農四千五百十二人で従來自作兼小作農や自作農が比較的多數を占めて居る一方爭議の根源となる様な大地主もなく至極

梨の出盛り 一日十噸位宛

石城郡の代表的果實として逐年其收穫増加しつつある梨子の平驛移出高は五六日前迄は一日平均三四噸位であつたが此程に至り一日十噸位の發送を見て居るが需

光影會審査 入選者氏名

平町光影會寫眞展覽會は平陽實科女學校にて開催中だが入選者は左の如くである

募集 稿を募集します

工場にて羽賀生、少女原の町カメラ俱樂部(四等)日の入る頃田村生、朝頃坂本兼次郎、蟬なく頃羽賀生、餌とり原の町カメラ俱樂部

不平受付 投書歡迎

刑事と自轉車 平署の某刑事が自轉車に三四歳の小供を乗せて走らせて居るのを見ましたが一体刑事は自轉車に二人乗りをやつてもよいのでせうか、これが普通人ならスグ處罰されます(大不平生)

讀者割引券 聚樂館にて上映

警察 石田部長
此券持參の常磐毎日新聞讀者に限り特に木戸廿錢

水邊同、 平町人事

- 出生
△南町 齊藤次郎氏三男九十九三女百子
△杉平 大谷友三氏四男幸平
△銀治町 鈴木兼政氏六女錦子
- 婚姻
△古鍛冶町 上田耕作氏(一九) 仙台市北番町大宮てる(二二)
△緋屋町 伊藤四郎氏(三〇)兵四丁目石川リ(二八)
△山形市七日市 鈴木權助氏(四二) 緋屋町三橋シナ(二六)
- 死亡
△銀田町 近藤マ(六七)
△坂小路 當時英城縣多賀郡高箱村 松原米治(二二)
△古鍛冶町 關壽(二二)